

「冬に種をまく」

1. 「はなさかじいさん」

右のイラストは、「はなさかじいさん」を描いています。犬を大事にしていたが、隣の意地悪に犬を殺されるのです。その後、夢に現れた犬が「臼」をつくるように言ったので、臼をつくと財宝が出て来たのです。又しても隣の意地悪にその臼を燃やされたが、その灰をまいたら花が咲いて、この話を聞いた大名が褒美を与えたと言うような話です。



この話は、善良な老人と意地悪な隣人の対比で「善行」を啓蒙する形になっています。犬を可愛がる→小判が出る→犬が死ぬ→「臼」→財宝→臼が焼かれる→灰をまく→花が咲く→評判が殿様に聞こえる→意地悪な隣人は懲らしめられて、善良なおじいさんは褒美を与えられたという流れです。この対比で「無欲な善行」の重要性を教えています。

2. 「無」ということ

今、経済は100年に1度の危機にさらされているのですが、先の「はなさかじいさん」の話が今、もっとも重要な「生き方」を教えているように思うのです。自分(自社)が苦しいからと言って、自己中心的な営業活動では、お客様は受け入れにくいのです。「売ろう」という魂胆は、お客様はすぐに見抜くものです。見抜いた途端に身構えるのです。これでは、お客様から「有益な情報」を聞き出すことが出来なくなるのです。

ところが、こういう類の方が結構、多いのです。自分では「自己中心」と気づいていないかも知れないのですが、「求める」という事が行動に現れてしまうのです。私は、営業の方に「求めない」という心境になれと言っているのですが、その「無」の心境になかなか頂けないのです。ちょっと、相手がスキをみせたら、本性が現れてしまうのです。「決めるのはお客様」と言っているのですが、「売りたい」が言動に出てくるのです。

営業の極意は「さり気ない示唆」によるお客様の「気づき」で購入して頂くというスタイルなのです。営業術というものが氾濫していますが、この「極意」を忘れないようにしたいのです。

3. 冬に種をまく

私は、経営コンサルタントとして、お客様から「即効果」のビジネス・モデルや商品の売り方、あるいは、サービスの提供法などを期待されています。その期待に応える指導を行っていますが、多くの場合、「流行適応」すなわち「場当たり」的に陥ってしまうのです。その大きな原因は、戦略不在の戦術展開という点につきるのです。

本来、企業経営を支えるには「商品戦略」が優先して、その対象となる市場や顧客への「営業戦略」をつくるという手順が基本なのです。ところが、いきなり「営業戦略」となって拡販の仕掛けばかりを求められるという傾向があるのです。私は、「冬に種をまく」と言っていますが、いきなり「果実」を求めるのではなく、自分の目指す姿に必要な商品・技術・サービスを導入、習熟する事から始めることが先行するのです。

「冬:種をまく」→「春:芽が出る」→「夏:大きく成長」→「秋:収穫」という風に「育てる」というスタイ

ルが重要なのです。「戦略商品」を決めて、その市場を育成するという事なのです。ところが、多くの方は、いきなり「秋:収穫」を望まれるのです。これでは、「はなさかじいさん」のように、展開しないものなのです。「商品」に惚れて可愛がる、即ち、成長を楽しみにするという気持ちの余裕が欲しいのです。今「収穫」という商品は、多くのライバルがひしめきあって競争しているのです。こんな競争下では、期待する収益が望めないのです。

「冬に種をまく」とは、このように「先見の明」が必要なのです。「育成」という気持ちがなければ、途中経過でブレが出るのです。「育成」という「信念」が、他社が手掛けない商品というオリジナリティを与えてくれるのです。まさに、「はなさかじいさん」的な世界です。育成し切ると「コア・コンピタンス」となって「競争優位」を与えてくれるのです。

4. 成功の方程式

しかしながら、全ての「種」が最後の「収穫」にまで辿りつくに限らないのです。成功の確率というものは千分の一程度に低くなっているのです。その失敗の原因は、途中でブレる事が大きいのです。途中でブレずに「水」をやり、「肥料」もやり、さらに、「雑草」も刈らねばならないのです。

右掲の「成功の方程式」にあるように「習慣化」すなわち「やり続ける」ことが重要なのです。実践の途中で、最初の「心が変われば」に惑わされると蓄積した知識や経験が活かされないのです。エジソンの言うように「失敗しても、この方法ではダメだと言うのが分った」という達観が必要なのです。なんでもかんでも「なけなしの金」という事で成果を重視しては、長期戦ができなくなるのです。何事も「時間」がかかることを肝に入れておく必要があります。

成功の方程式

心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる

【まとめ】

1. 「はなさかじいさん」は、善行を施していただけである。
2. 「自己中心」ではなく「無」の境地で「品格」を重視する
3. 厳しい環境下にある時に新しい種をまく
4. 途中でブレない

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】